

令和8年2月20日酒々井町総合教育会議 議事録

開催日 令和8年2月20日(金)

開催場所 役場分庁舎2階第2多目的室

出席者	町長	金塚 学	教育長	林 洋子
	教育長職務代理者	村重 浩二	委員	大塚 益子
	委員	河端 孝順	委員	大宮 綾子
	参事兼総務課長	倉波 孝雄		

説明員	教育次長	越川 和章	参事兼生涯学習課長	伊藤 尚志
	学校教育課長	榎本 泰之	中央公民館長	堀越 邦子
	プリミエール酒々井館長	佐藤 高信		

事務局	こども課長	宮田 浩司	こども課主幹	坂本 康宏
	こども課副主査	高橋 秀和		

日程第1 開 会 (開会時刻 13:30)

日程第2 町長あいさつ

日程第3 出席者紹介

日程第4 議 題

- (1) 酒々井町のまちづくりと教育施策について
- (2) 町立小中学校施設の今後のあり方について
- (3) その他

日程第5 閉 会 (閉会時刻 15:05)

日程第1 開会の宣告

越川教育次長

それでは定刻となりましたので、これより地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきます総合教育会議を開会いたします。

本日は、昨年12月、酒々井町長に就任されました金塚学町長に、まちづくりや教育施策についてお考えをお示しいただき、教育委員会と相互理解を図りつつ、今後の円滑な施策展開を行おうとするものであります。

なお、会議の進行は、司会により進めさせていただきたいと存じますのでよろしく願います。

それでは、これより進めさせていただきます。

日程第2 町長あいさつ

越川教育次長

先ず、開会にあたりまして、金塚町長よりごあいさつをお願いいたします。

金塚町長

皆さん、こんにちは。

この総合教育会議につきましては、首長と教育委員の皆さんの意思疎通を図り、地域の実情に合った教育行政を進めていくために、開催されていると認識しています。今日は私の教育施策について、少しお話をさせていただき予定でございますけれどもぜひ、忌憚ないご意見をいただきながら、皆さんとともに創るまちづくりを進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

日程第3 出席者紹介

越川教育次長

次に、出席者のご紹介をさせていただきます。金塚町長にはただ今、ごあいさつをいただきましたので、教育委員会側よりご紹介いたします。

越川教育次長

林洋子教育長です。

(林教育長あいさつ)

越川教育次長

教育長職務代理者の村重浩二委員です。

(村重教育長職務代理者あいさつ)

越川教育次長

大塚益子委員です。

(大塚委員あいさつ)

越川教育次長

河端孝順委員です。

(河端委員あいさつ)

越川教育次長

大宮綾子委員です。

(大宮委員あいさつ)

越川教育次長

そして、本日は町執行部側から倉波参事兼総務課長にもご出席いただいております。

日程第4 議 題

越川教育次長

それでは、早速、本日ひとつめの議題であります、「酒々井町のまちづくりと教育施策について」金塚町長よりお願いいたします。

金塚町長

皆さん改めましてこんにちは。今年の11月30日(日)に執行されました酒々井町長選挙において、第48代の酒々井町長を拝命することになりました。金塚学でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は時間をいただきまして、酒々井町のまちづくりと教育施策について、少しお話をさせていただければと思います。

まず今年の選挙の際にもお話をさせていただきましたけれども、私の施策の一番目が「まちづくりはひとづくり」です。

その次に、「ともに創ろう酒々井の未来!」となりますが、物理的なインフラ整備ではなくて、人と人とが結び合って作っていくのがまちづくりという認識から、まちづくりは人づくりと発表させていただき、選挙を戦わせていただきました。

住民の繋がり、コミュニティが創出されることによって、持続可能なまちづくりが進んでいくという認識から発表させていただいた訳ですが、まさに人と人とが作り上げていくという意味で、お子さんから生涯学習を通じて大人の方まで、教育が私は非常に大事だと考えておりますので、その辺を進めさせていただきたいと思います。教育分野としましては、子ども達の成長を楽しみながら暮らせるまちづくりと、発表させていただいております。

子ども達の成長を楽しみながらというのは、子育てしている世代の人達だけが楽しめれば良いというわけではなく、もう子育てを終えられている方、そしてお子さんのいらっしゃらない方、そして单身の方も含めて、そういう方達が、子ども達の成長を楽しみながら暮らせるまちを目指していきたいと考えています。

例えば、公園で子ども達が元気に遊んでいるのが、普通の人が見れば楽しく遊んでいて、子ども達が元気に成長しているのは良いなと思う一方で、コミュニティとして考えれば、閑静な住宅地の中で、子ども達の声がうるさいとか、またそのボールが飛んできて危ないと思う人もいらっしゃいます。

大人の方も最初は子どもだったわけですから、そういう人達にも、子ども達が成長していく姿を楽しみながら暮らせるまちづくりを考えております。

もう少しお話をさせていただければ、小学校が2校、中学校が1校ありますけれども、小学校ができて、運動会などのイベントで、マイクの放送がうるさいとおっしゃられる方もいらっしゃいます。

しかし、その小学校があるところに引っ越してきた方達ですから、しっかり協力をしながら、全ての町民の皆さんが子ども達の成長を楽しみながら、暮らしていけるまちづくりをしっかりと進めていきたいと思っております。それによって、例えば、通学路を通っている子ども達を見て、声を掛けるなどといった、地域一体のまちづくりができていくのではないかと思います。

住んでいる人達がこの町で子育てしていて良かったなと思えるようなまちづくりをしていくことで、よその街に住んでいる人達が酒々井町で子育てしたいなと移り住んできて

らいたいと考えております。

その中で、家族が楽しみ遊ぶ、ドッグランがあるような総合公園の整備を進めていきたいというお話をさせていただきました。

地域には、街区公園といった住宅街に住む住民の利用を目的とした小さな公園がありますが、その他に酒々井町の場合には、酒々井町総合公園があり、建設後52年という月日が経っています。

残念ながら、国道296号の脇にありアクセスが悪かったりして、子ども達を連れて歩いて遊びに行くことはなかなか難しく、車で移動することになりますが、私はもう一度整理をさせていただいて、例えば朝からお弁当を持って家族連れが遊びに行ける、そしてその芝生広場で1日寝転がって、家族揃って遊べるような、また、週末になったら、イベントが開催されるなどといった楽しめる公園にしていきたいと思っています。

そうした中で、今年の11月にこども議会がありましたけれども、お子さんから、サスケパークみたいなものを作っていただきたいというお話もありました。一昨年になりますが、町の議員の中からも、もともとはアスレチックがあったが撤去されてそのままになっているのでそういう大型の遊具を誘致できないかという話もありました。

そういったことも含めて総合公園を再整理させていただいて、子ども達が楽しめる、そして家族連れで楽しめるような、憩いの場となるような公園を作りたいと思います。

街区公園に遊具を設置しても整備にお金がかかったり、逆に遊具にぶつかってしまうこともありますので、そういったことも調査研究をさせていただきながら、街区公園の遊具は少なくなってしまうかもしれませんが、総合公園にはしっかりと遊具を設置するなど、政策面でもしっかりと謳っていきたいと思っています。

次に、「通学路の安全点検とユニバーサル化の充実」を書かせていただきました。

町内には、様々な道路があります。国道・県道もありますが、町道も子ども達が通っていくことになると思います。教育行政から見れば、家から一歩出て、道路を歩いて学校まで行く、そこが通学する道であれば通学路という定義になるかと思いますが、通学路の点検を行って、子ども達の数の分、全部の道を点検することは非常に難しいと思いますので、通学路の定義を町でしっかりと決めて、まずはその道路から整備をしていくことが重要だと思います。

そして、そこにユニバーサル化と書かせていただきましたが、段差をなくすなどを進めていくことによって、子ども達だけではなくお年寄りの方達も安心して通行することが出来る道を整備することが重要だと考えます。町が管理している全ての道を整備することが最終的には大切だとは思いますが、現実的に全ての道を同じように整備することは、財政的には非常に厳しいので、通学路をしっかりと整備させていただいて、そこに子ども達が集まってきて学校まで通っていくというような道筋を作りたいと思っています。まちづくり課の協力も必要になってきますので、今後しっかりと調査研究を行っていきたいと思っています。

次に、「町立小中学校の改修と体育館へのエアコン設置を推進」についてです。

まず、1つ目にお話したいのは、この後の項目で発表があるかと思いますが、私は小学校2校、中学校1校という学校配置については全く異論がなく、その状態を維持していきたいと考えております。その理由としては、選挙のときにもお話をさせていただきましたが、今後数年間は、酒々井町の人口は、今は現実的には少しずつ減ってきていますが、減らしていくという政策ではなくて、私は維持もしくは増やしていくという政策をしっかりと打ち出していきたいと思っていますので、小中学校を統合して一校にしてしまうという発想ではなく、今の学校の配置を維持しながらしっかりと整備を進めていきたいと思っています。

就任してから小中学校の見学をさせていただきましたけれども、40年、50年という月日が経過したことによって、非常に老朽化しているという現実があります。

ただ、当時昭和50年前半から昭和60年代にかけての爆発的な人口増加の頃に、7クラス8クラスあった時代と今の1クラス2クラスという時代とでは、空き教室も発生していると認識しています。全ての建物を綺麗に改修することは、莫大な費用がかかりますので減築等を考えてでも、今の適正配置の状況は続けていきたいと思っております。

そして「体育館のエアコンの設置を推進」について、この後出てくるスポーツの推進にも関わってきますけれども、学校体育館は、今までは学校施設という形のあり方だったと思いますが、これからの時代は、町民の皆様に広く開放して、体育館の有効活用もしっかりと考えていかなければならないと私自身は考えています。

また、避難所にも指定されているため、エアコン等を整備して、体育館が活用できるように進めていきたいと考えております。

古い先生方に話を聞きますと、教育で生きる力を育んでいく中で、暑さにも順応していく能力が必要ではないかと言う方もいらっしゃいますが、一方では熱中症対策で、体育は中止しましょうと言っているという現状ですので、エアコンをしっかりと設置するべきではないかと思っております。40度を超えるような暑さの中で、もし体育館が避難所になった場合には、避難すらできなくなることや、夏場の体育館を使つてのスポーツ振興も考えたときには、エアコンは必要だと思います。

財政的な問題がありますので、しっかりと調査研究をしながら進めていかなければならないと思っておりますけれども、小学校2校、中学校1校で、災害対策を考えれば、電気だけを使うのではなくて、リスク分散を考えつつ、電気の発電を使つて行うエアコンの設置、それからプロパンガスを使つてのエアコンの設置、それから都市ガスを使つてのエアコンの設置と、色々なパターンを考えながら、推進していくことも必要になってくると思っております。

国の補助金や交付金、県の補助金や交付金の活用を検討しつつ、教育行政に携わる皆様の力もお借りしながら、進めていきたいと考えております。

次に、「酒々井学の郷土愛とともに国際交流による国際感覚の醸成推進」と書かせていただきました。

私は14年前の37歳のときに町議会議員になり、1期目の平成25年度第5回の一般質問で、ふるさと教育の推進について、質問させていただきました。

当時の質問内容を見直したのですが、酒々井小学校区と大室台小学校区では、郷土に関するイベントは、非常に差があります。例えば獅子舞については、上岩橋・馬橋・墨地区で推進していますが、三つとも酒々井小学校区です。

国史跡の本佐倉城や酒の井伝説なども酒々井小学校区で、大室台小学校区には残念ながらなかったりしますが、酒々井っ子ということには変わりありません。1校の中学校に通うという現実がありますので、酒々井学を通じて郷土愛を育むことを、しっかりと推進していくことが重要だと考えます。

子ども達が大きくなったとき、就職をして一度は外に出てしまうかもしれませんが、ふるさと愛で戻ってきたりすることも考えられるので、私はこの素晴らしい酒々井学をしっかりと推進していきたいと思っております。

その下に、国際交流による国際感覚の醸成とあり、今更かと言われるかもしれませんが、好きなときに好きなように海外に行ける時代になった中で、私としては親の収入に関係なく色々な子ども達がそういう場に出ていることが重要だと思います。お金があるご家庭の子は機会に恵まれ、残念ながら財政的に厳しいご家庭では、海外旅行も含めて海外に出ることが少し厳しかったりするかと思いますが、国際交流によって海外に行くことができなくても来てもらうことで、まかなうことを考えています。

もう少し深くお話をさせていただければ、令和8年度の国際交流事業も議会に上程されて可決されており、昨年度は10名の方達がドイツに行きましたが、ドイツに限らず、もう少し近くて、安いところでも、多くの子ども達に参加していただけるように推進できればと考えております。

次に、「国と連携し、給食費無償化の推進」と書かせていただきました。私は、地方自治体で何が何でも給食無償化をしたいという訳ではありません。「国と連携し」と書かせていただいたのは、義務教育という制度の中で、ある市町村はお金があるから無償化で、ある市町村では予算がないので有料ですといったように、千葉県内でも、4,000円の1ヶ月の給食代を取っているところもあれば、8,000円、9,000円も取っている市町村もあり、格差が生まれてしまっています。

私は、全国どこの学校に通っても無償化されるというのであれば、しっかりと推奨していきたく思っておりますが、無料でご飯が食べられることが本当に素晴らしい教育なのかと考えたときに、少し間違っているのではないかと考えています。

50円や100円でも良いので一食食べるにはお金がかかることをしっかりと学んでいただくことも、教育の一環だと私は思います。

既に例えば生活保護を受けられている家庭は無償になっているわけですから学校教育だからといって、何千万も稼ぐようなお宅の子まで無料にし、ただでご飯が食べられることが本当に正しい教育なのかということは少し疑問があります。そして、自治体が負担していくという形になると、今みたいな物価高騰の時代にあって原材料費が上がった場合、もらっている金額が決まっているわけですから、質を下げていくしかなくなり、パンと牛乳とおかず一品しか出ないなど給食の中身がどんどん少なくなっていくと思います。

私は最初から無償化するのではなくて、一食50円でも100円でも良いので、しっかりとお金をいただいて、学校給食が成り立っていくというような考え方が良いと思っておりますが、今、国としては、小学生は無償化することで方針を決めておりますので、小学校の無償化が始まって、今後どのようにしていくのかをしっかりと注視していきたいと思っております。

次に、「スポーツを通じて地域の活性化を推進」と書かせていただきました。元々団体スポーツなどは、高校野球とかを見ていると、学校から一チームというのが当たり前だった時代が、今では3校も4校も集まってチームを組んだりしている部分もあります。今、冬のオリンピックが行われていますけれども、個人種目であれば、通信制の高校に行ってもスポーツをしっかりとやりたい生徒もいます。スポーツを通じて地域の活性化、体を動かすということは素晴らしいことだということを忘れないようにしていただきたく、そのためには、サッカー場やテニスコートなどを、広く開放して多くの皆さんがスポーツに接することができるようにしたいと考えております。酒々井町には町立の体育館がありませんので、学校施設を開放していくことを、3月3日（火）から始まる酒々井町議会3月定例会でもお示しさせていただきたいと思っております。

先日、学校長とお話をさせていただきましたが、本来学校施設は学校の施設ですが、それを住民の皆様にお貸しするのは問題があるのかと聞いたのですが、全然問題があるとは思いませんと答えていました。

授業の時間は、しっかりと確保しなくてはいけないのですが、空いている時間帯はほとんど住民の皆さんにお貸ししても問題はないというお話でしたので、私は、学校施設を積極的に開放していき、施設にはお金をかけてでも、整備を進めていきたくと考えています。

学校の施設だからといって学校でしか使わないのであれば、一部の町民の皆さんだけになりますけれども、広く地域住民の皆さんが使える施設であれば、お金を投資しても苦情がこないと考えておりますので、しっかりと学校施設の充実を考えていきたくと思っております。

おります。

短い時間の中、たくさんのお話をさせていただいてしまいましたけれども、私のスライドは以上となりますので、私の教育に関する説明は終わらせていただきたいと思います。
ご清聴ありがとうございました。

越川教育次長

ありがとうございました。

ただ今、金塚町長よりお示しいただきましたまちづくりと教育施策について、教育委員の皆様からご質問やご意見等がございましたらお願いいたします。

大宮委員

今日は酒々井小学校の学校施設に行きまして、給食をいただきました。

今日の麻婆豆腐は温かくて、美味しくいただきました。

そこですが、給食費無償化の推進につきまして、国より令和8年度から公立小学校に通う児童の給食費の無償化の動きがあります。先ほど町長から少しでも給食費を取った方が良いのではないかというお話がありましたが、中学生の給食費の動きに関して、今後どのようなお考えかお聞かせいただけたらと思います。

金塚町長

ありがとうございます。

先ほどのスライドの中でもお話をさせていただきました。本来は、50円でもいただくべきなのではないかと思いますが、国の施策で、全国一律であれば、私は無償化に異論ありません。

今、小学校から無償化が始まっていますが、中学校についてはまだ国の方からお示しいただいていません。

既に昨年度の段階で中学校の給食無償化が始まってしまっておりますので、令和8年度以降これを戻して4,000円や4,500円いただくことは、また難しい問題だと思います。

ただ、完全な無償化を目指すことは、国がしっかりと制度を示すべきだと思いますので、町の方から手を上げて、無償化しますとやっていくことは、私は時期尚早だと思います。

大塚委員

先ほど国際交流について、ドイツだけでなく近くでも良いのではないかというお話がありました。オーストラリアとドイツに派遣していましたが、オーストラリアについては、向こうの事情で実施しなくなったと聞いております。具体的には、どこの国か、また、これからどのようにして国際交流を進めていこうとお考えかお聞かせください。

金塚町長

ありがとうございます。

国と国との関係の中で、オーストラリアとはもう少し仲良くしていこうという政策を出しているので、私はそういうものに乗っかっていくことも大事だと思います。また学校教育の面では、季節は真逆ですけれども時差があまりないので、子ども達の体調を考えたときには、良い場所だと思っています。向こうがあつての話ですが、他の地域のことを考えれば、オーストラリアにまだ留学等をやっている地域もあるわけですから、その学校が向こうとして受け入れが難しただけで、まだ探していけば、できるものもあると思います。また英語教育に酒々井町も力を入れているので、ドイツ語と、ちょっとハードルを上げてしまうのではなくて、私は英語圏のところに行かせてもらって、皆さんの英語教育で培った能力を発揮しながら、実際に交流できるような場が良いと考えているので、オーストラリアも私は素晴らしい国だと思っています。

また、財政的に厳しい中で、10名とか20名しか本当に限られた子達には行けないと

いう状況をずっと続けていくことが良いことなのかクエスチョンマークがつきますので、もう少し多くの人数を連れて行ける環境作りを進めていかなければならないと考えております。

大塚委員

国際交流を経験した人で大人になった方にお会いして、その人は第1期の派遣生徒で、この4月から就職先も決まって、瞳を輝かせて海外に行った経験が自分を大きくしてくれたとあって、「この前も東南アジアに行って来ました」と言っていたので、一人でも多くの生徒達がそういった経験をできるようによろしくお願いいたします。

河端委員

酒々井学・郷土愛という観点から本佐倉城跡という史跡があります。

町長の公約にもこの体験型観光資源を謳っておりますけれども、それは具体的にどういったものなのかお聞かせください。

金塚町長

ありがとうございます。公約にも掲げさせていただきましたが、観光は産業になると思っております。今までの酒々井町の観光のあり方は、看板を立ててチラシやパンフレットを作ったところがありますよとお示しをさせていただいたと思うのですが、私は実際に現地に行って触ってみる、見てみるなど実際に体験をしてもらいたいと思っております。

そのためには、今、ボランティアガイドの皆様をお願いしておりますけれども、私は、またそこがお金の話になるのかといわれてしまうかもしれませんが、300円や500円でも良いのでお金をとってでもしっかりとその体験をできる、普段生活をしている地域にないことが体験できると思っております。実際に現地に行ってもらって、城壁に登って例えば筑波山が見える方向とか印旛沼が見える方向を見ると、得られるものが非常にありますし、こういうスペースがあって当時はこういう施設で、こういう生活をしていただくと分かってくると思います。

また、あの地域はまだ農業が振興されている地域で、田植え・稲刈りの体験なども実際に体験できますので、大人の方や、インバウンドの外国人の方にも、実際に見てもらうことを進めたいと思っております。

河端委員

ありがとうございます。

素晴らしいことですので、是非進めていっていただきたいと思っております。

大塚委員

子育て世代以外にも子どもの成長を楽しみながら、公園で元気に遊ぶ子どもを見守っていけるようなというお話がありました。街区公園の遊具を少なくして、総合公園の遊具を増やすということでしたが、個人的に私は時々孫の面倒をみるのですが、孫がまだ幼児ですので総合公園に連れて行くには遠すぎます。歩いて行けるのは街区公園であって、前は草が沢山生えていたのですが、最近草を刈っていただき、凄く子どもが遊びやすくなりました。

一番近い公園は昭和公園で、昭和公園に連れて行ったときは色々転がったりして遊ぶのですが、滑り台が無くなっていて滑り台で遊びたいということで、次は柿の木公園にいったら滑り台はあるのですが、小学生が利用するような大きな滑り台でちょうど良い大きさの滑り台は、はつらつ公園とか総合公園に行かないと幼児向けの滑り台はありません。小さい子を連れてくる身としては、歩いて行ける身近なところに遊具があったら良いなど、こども議会でも子どもから、公園の動物遊具が老朽化してかわいそうだったと発言がありましたが、街区公園の方にも目を向けていただけたらなと思っております。

金塚町長

ありがとうございます。

貴重なご意見だと認識させていただいております。当時は急激に子ども達の数が増えた時代には街区公園にそういった遊具をたくさん設置したと思います。

ただ、やはりデータ的に見ればもう0歳の子ども達が100人以下で、高齢者の方達が年間200人以上亡くなっている人口ピラミッドが全く逆の状態になっている中で、街区公園全てに遊具を設置していくことは、財政的には厳しい状況だと思えます。

全部中途半端ではなくて、総合公園をメインの公園にして、遊具を集合して整備を進めていきたいと考えています。

ただ、上岩橋児童遊園という公園は町が管理している公園の中の1つですが、街区公園と扱いが違いますので、そういうものも調査研究をしながら、まずは総合公園を整備していきたいと考えています。貴重なご意見をありがとうございました。

大塚委員

ありがとうございます。楽しみにしております。

あと子どもの声がうるさいとかボールが飛んできて危ないとか苦情が来ることは、住民同士のお互いの理解が足りないからだと思えます。

政策的に住民同士仲良くしましょうというだけでは、中々上手くいかず、高齢の方で酒々井町は旧住民と新住民という意識が凄くあって、旧住民は中々外に出ません。

例えば公民館で呼びかけをしても、講座に参加するのは新住民が多いと思えます。

そういった隔たりがあるものを行政としてどうやって埋めていこうか、その住民同士の人と人の結びつきをどのように施策として考えてらっしゃるのかお聞かせいただきたいと思えます。

金塚町長

ありがとうございます。

まさに私は旧住民・新住民といった言葉は使わないように心がけているのですが、逆に言うと、私が町長に選んでいただいたこともそういうところを少しずつ変えていきたいなという、町民の皆さんの思いだと受け止めさせていただいております。

今までは当然旧地区の皆さんから選ばれた人達がずっと歴代町長をされてきて、そういう発想で、このまちづくりは進められてきたのだと思っております。ただ新しい人達にも住んでいただいて、一緒にやっていくことを発表し、町長に就かせていただいておりますが、政策で掲げるだけでは難しく、まちづくりは人作りであり、まさに教育だと思えます。

それを子ども達が小さい頃から大人の人達とふれあっていって考え方自身が変わっていくのではないかと考えています。先ほども話しましたが、文句を言っている大人の人達だって小学生の時代があるわけですがそれをすっかり忘れてしまって、自分達の生活を守るために子ども達がうるさいと言ったりとか、ボール遊びをしているのにその子達に対して、そこでボール遊びをしてはいけないという風になっているのだろうと思えます。

後からできたルールなのか先にできているのかわかりませんが、そういうふうに制限をしていくことで、どんどん子ども達が住みづらくなるというような現状があると思えます。

子ども達が今少なくなってしまうかもしれませんが、町の財産ですので、親御さんだけでなく地域のみんなで育てているという考え方を広めていくことで、もう少しそれが緩和されていくのではないかなと考えています。有権者の皆さんに遠慮して首長が発信しないのではなくて、どんどんそういうのは発信していくべきだと思っております。

この場で話して良いのか分かりませんが、高齢者の方の方が、投票率が高かったりするので、その人達の事を考えた政策をどんどん出していく方が、自分の将来のために役立つ

つという先輩方が多かったと思います。

そうではなくて、やはり子ども達は宝ですので、子ども達に次の世代の人達のために、どういうふうにまちづくりをしていくのかを、しっかりと首長側が発信をしていくことで、お孫さんかわいいなって思っている人達が応援してあげようかなと思いが変わってくると思います。

しかしながら、町長になって3か月経過しましたが、金塚町長は子育て支援ばかりやって、大人のこと、年寄りのことはもうやらないだろうと言う人も中にはいます。そうではなくて、自分達のことをやってもらいたいのであれば、お年寄りを支えるお子さん達を支援しないと、予算がカットされて何にもできない時代が来てしまいます。

言われたことに対して、例えば外出支援として、タクシー券を渡しますと、65歳の人達に何枚も出してお金を全て使ってしまったら、子ども達の施策はどうするのかということになってしまいます。

バランスよくやっていくためには、子育て世代に支援をしていって移り住んでくる人達をしっかりと受け入れてその人達に支えていただいて、これから自分達が高齢者になっても、この町は住んでいてよかったと思える町になることを、しっかりと訴えていかなければいけない時代になっていると思います。確かに今まで受けてきた教育が、世代間で違うということはあると思いますが、私としては、町の広報などでそういったことを発信していければと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

村重教育長職務代理者

まちづくりについて伺います。成田空港の第2開港プロジェクトを活かした発展する町について、4万人から7万人へ増加するといわれる空港内従業員の取り込みについて、どのような施策により取り込もうとされておられるのかお聞かせ下さい。

金塚町長

この話については少し長くなってしまいかもしれませんが、なるべく手短にお話しさせていただきます。

空港内の敷地内従業員、いわゆる成田空港株式会社というIDカードを持って働いている人達が約4万人と発表されています。2029年の3月に、第3滑走路が整備されますが、そこから少しずつ旅客の数や貨物の量が増えていくので、空港の敷地の中で働く人達が今4万人ですけれども、7万人まで増えていかないと業務が回っていかないとされています。2029年3月の時点で急に増えるわけではなくて、そこから少しずつ増やしていって、2040年の半ばぐらいまでにはそういう体制を作りたいというのが空港会社さんの考え方だと思っています。

昭和53年の5月頃だったと思いますが、新東京国際空港として成田空港が開港したときも、急に新しい雇用が生まれ、酒々井町の住宅開発が進んで、空港関係者の方達がたくさん移り住んできたと認識しています。今後7万人に増えていくわけですから、住む場所がないといけないと思っておりますので、空き家対策をしっかりとやっていきたいと考えていますし、駅周辺を中心に、もう少し住宅開発を進めていって、働く人達が増えていくことを目指していかなくてはと考えています。

総合教育会議なので、学校の問題になってきてしまうかもしれませんが、統合して学校を減らすという考え方ではなくて、これから人が増えていくのだから、今の学校は何とか維持して、新しい子達が増えても受け入れ体制を整えておかなければならないと考えられます。ただ、酒々井駅とか京成酒々井駅の周辺を住宅開発していくのはなかなか難しかったりします。

皆さんの頭では宗吾参道駅や南酒々井駅ではないかという発想があるかと思いますが、どこの学校に通うのか、学区の問題とかが出てくるので、今後しっかりと子ども達の数が増

えてきたら調整をしていかななくてはならないと思っております。

酒々井小学校が急に増えたり、大室台小学校が増えたりということがありますが、片方が減って片方が増えてといったバランスが取れなくなってしまうかということを考えていますので、学区のあり方もしっかりとしなくてはいけないと思います。

空港という産業からすると、65歳以上の人より若い世代の人達の方が増えてくると考えていますので、お子さん達の数も増えることもあるかと思えます。もう一つ問題点があるとすれば、外国人が増えるということだと思います。私が議員の時代にもちょうど教育次長に質問させていただきましたが、英語だけでなく、聞いたこともないような言語を喋る人達もいらっしゃいます。学校に来ても言葉が通じず、親御さんにこの荷物を持ってきてくださいってお願いしても、親御さんもわからないから子供に荷物を渡すことができないこともあります。

私としては、話す言語ごとに小学校を分けてみたらどうですかという提案をさせていただきましたが、現在38カ国ぐらいのところ、今後60カ国70カ国となってくる可能性もあるので、限界があるのかなと思います。翻訳機能を使ったりとか色々な工夫があるとは思いますが、私が言いたいのは人が減っていく施策ではなくて、増えていくこともあり得る、もしくは維持していくことを目指して、しっかりやっていきたいなと思っております。

選挙でも話しましたが、4万人から7万人に増える内の3万人のうちの10%で3,000人、5%でも1,500人という人の受け皿に酒々井町がなれば、まだまだ酒々井町の発展もあると考えていますので、働き盛りの人達が移り住んでくれる環境作りをしていかななくてはならないと考えております。

村重教育長職務代理者

私の実家は東酒々井4丁目なのですが、近所を見渡すとかつて現役世代のときは空港で働いている方が多かったと記憶しています。私の母親は85歳になっていて、10年しないうちに実家は空き家になると思います。

うちの実家の近所でも最近空き家になった家が何軒もありますが、空港で働く若い世代が住み替われば、2万人を切るような極端な減り方はしないと考えています。

私も空港の施設建設に携わっていて、今第3滑走路の建設が進んでおり、空港で働いている方の話を聞いていると酒々井町に住みたいというニーズは増えています。駅近、空港まで2駅なので、酒々井町で良い土地が見つければ住みたい方は相当数いらっしゃいますので、ニーズはあると思います。

大塚委員

関連してですが、若い世代を増やすには子育て支援が重要だと思います。例えば流山市や印西市などといった凄く子育てに力を入れているところは人気がありますので、酒々井町も子育て支援に是非力を入れていただいて、幼児も小中学生も生き生きと暮らせるような政策を考えていただきたいと思えます。

金塚町長

子育て支援は、多くの市町村で力を入れていると思います。1人目の子が生まれたらいくら、2人目の子が生まれたらいくら支給するといった政策もありますが、私はそういう政策ではなくて、共働きでも働きながら子育てしたいという人達が増えているように認識していますので、0歳、3ヶ月の子どもは難しいかもしれませんが、後半になったらもう子供を預けて、なるべく早く仕事に復帰したいという人達もいるのだと思います。家を選ぶときに、役場に電話をして、保育園の空きはどうですかって聞いたときにもういっぱいですって言われてしまうと、もうその時点で選択肢がなくなってしまうと思います。

アパートを借りるにしても、マンションを借りるにしても、一戸建てを建てるにしても、

保育の環境が非常に重要だと思っています。私は0歳1歳2歳3歳児など低年齢の子ども達を預かる環境が、酒々井町は弱くなってしまっているのかなと思う部分もあるので、そこは投資をしてでも、そういう子ども達を預かるような環境作りをしたいと思っています。

スーパーが駅のそばにあって、駅まで数分で歩いていけるという家を買うにしても、成田市だったらバスに乗らないといけなくらい離れないと一戸建てを買えないという点もあるかと思っていますので、そういったものはしっかり生かしていきたいなと思っています。

先ほど村重委員が言われたような、まちづくりという部分と子育て部分とがあると思うのですが、若い人が移り住んでくれるような環境を作っていくためには、今ある空き家対策で何か登録すればいいかじゃなくて、酒々井町はやっぱり売りに出せば売れます。良い物件はありませんかと言われるのですが、不動産屋に聞くと借りたい買いたい人が多くて物件がないと言っているので、需要と供給のバランスが崩れてしまっていると思います。そこも教育なのかどうかわかりませんが、お子さん達が今住んでない家を売らないままにしているのではなくて、もうそこに住まなくなったら売りましょうよということも広報していかなければならないと思います。方法はいろいろあると思いますが、職員の皆様の御知恵をお借りして工夫しながら、考えていければと思います。

越川教育次長

他にございませんか。なければ、次に、「町立小中学校施設の今後のあり方について」を議題とさせていただきます。

なお、昨年度、教育委員会では、学識経験者、教育関係者、保護者代表などを委員として「酒々井町学校施設のあり方検討会議」、つまり外部検討会を立ち上げ、学校施設再編・整備について検討を行っていただきました。その会議報告を受け、町教育委員会としては、昨年10月の委員協議会において学校の統廃合等について意見をまとめた経緯がございます。

このようなことから、先ず教育委員会より、今後の学校施設のあり方についてご意見を述べさせていただいた上で、その後、金塚町長から方針等、お考えをお示しいただきたくよろしく願いいたします。

それでは、説明につきましてはこども課長よりご説明いたします。

宮田こども課長

それでは、学校の統廃合問題、町立小中学校施設のあり方の検討について、ご説明をさせていただきます。よろしく申し上げます。

「酒々井町学校施設のあり方検討会議」につきましては、国のインフラ戦略、町の公共施設の老朽化、人口減少や児童生徒の将来予測から学校の適正規模・適正配置の検討などを背景として令和6年度において、小中学校の将来的なあり方について検討を行ってまいりました。

検討会議のメンバーは、学識経験者として大学関係者、町内各校校長、保護者代表としてPTA会長等に委員を務めていただきました。

検討会議の経過を申し上げます。検討会議では、学校施設の再編・整備の現状と課題を踏まえ、現状の3校維持を含め5つの再編・整備のパターンを作成し、それぞれのメリット・デメリット等を整理し検討を行いました。会議としていずれのパターンとすべきといった結論付けは行わず、再編・整備に向けた住民の合意形成の重要性から、合意形成を図るための過程、ロードマップを作成し閉会いたしました。

会議において、学校施設の再編・整備における現状と課題として挙げられたのはご覧の5件であります。特に(1)『児童生徒の減少と単学級・少人数学級の可能性』が問題視されました。単学級とは児童生徒数の減少によって、1学年に1学級のみの場合を言います。

次に、児童・生徒数の推移についてご説明いたします。最新の状況として、令和7年10月1日現在の町内3校の児童生徒数・学級数の状況について、右側の合計欄をご覧ください。酒々井小学校児童数は391人、大室台小学校は307人、酒々井中学校407人という状況です。また、学級数については、特別支援学級を除いた通常学級は、酒々井小学校の6年生が3学級ですが、その他は酒々井小、大室台小とも全学年2学級ずつという状況です。

今回のあり方検討会議における児童・生徒数の将来的な推計では、2024年・令和6年の時点でピーク時の3～4割程度、今後も長い年月をかけてなだらかに減少していき、2050年度ころにはピーク時の2割程度となる推計となっております。

グラフは、大室台小学校にて近い将来単学級化が生じる可能性を示しております。昨年度、会議時の時点で、酒々井町に在住する6歳以下の幼児を学区ごとに拾い上げていくと小学校2校を継続した場合、2025年度から2030年度の間、おそらく2027年度ころに大室台小学校で単学級化が始まるのではないかと推測をしております。以後、単学級化が常態化する可能性もあります。

次に表については、推移を数値で示しておりますが、小学校の欄で申し上げますと、2025年の児童数693人から2065年は305人となる見込で、1学年のクラス数は、両小学校で4学級から減少し2学級となる見込みです。

児童・生徒数の将来推計からわかることとして、繰り返しになりますが、2024年、令和6年時点で3校の児童・生徒数はピーク時の3～4割となり、今後は緩やかに減少が見込まれること、大室台小学校では2026年以降おそらく2027年になると思われませんが、新入学児童が35人を割り込み単学級となる可能性があることです。しかしながら、見方を変えますと、大室台小・酒々井小ともに単学級となる見込みはありますが、複式学級となる可能性は低いと思われまます。ちなみに、複式学級とは、原則2学年合わせて16人以下となる場合に複式学級となります。

そこで、単学級化についてどう考えるかでございますが、検討会での意見としては、デメリットとして教職員の負担増や教員不足などの学校運営上の問題点の指摘がありました一方、保護者の立場から少人数教育の良さや、成田国際空港の拡張による人口維持への期待と、さらに今後、国において35人学級から標準となる児童数が低減する可能性も含め、単学級化回避の可能性なども意見が出されました。

この単学級化を回避する方法のひとつとして、学区の変更が挙げられます。令和7年度は、墨地区から13人、馬橋地区から16人の児童が各スクールバスを利用し、酒々井小学校に通学をしておりますが、学区を変更し大室台小学校へ通学することで、大室台小学校の単学級化の回避に寄与できるのではないかと、また、通学区域としても均衡が図れるのではないかと、という考えもありますが、学区の変更については、両地区児童・保護者の意見を尊重しつつ将来的な課題となります。

次に、印旛郡市内、近隣市町の小学校の単学級・複式学級の状況でございます。単学級ありの小学校は、佐倉市全23校中、11校が単学級、成田市全21校中11校が単学級、以下、ご覧の状況です。なお、佐倉市の白銀小学校の比較的新しい学校でも2年生以外は単学級、成田市では玉造小や中台小などの成田ニュータウン内の小学校でも全学年単学級、さらに栄町においては町内3校すべてが単学級とのことです。右側の欄ですが、酒々井町を除く印旛郡市内102小学校中、単学級を有する学校数は49校、うち34校で全学年単学級、6校で複式学級を有しており、単学級がないのは酒々井町のみという状況でございます。

学校統合に係る報道資料から申し上げます。白子町は3小統合へ基本計画を策定しました。白子町の小学校統合への基本方針を「少なくとも1学年1学級」と規定し、この学校

規模を維持するため、3小を1校に統合する計画を策定したとのことです。次に、長柄町は、数年後複式学級が見込まれ、児童数長柄小102人、日吉小78人、両校とも全学年が1学級、数年後に複式学級となることが見込まれることから、統合が望ましいと検討委員会が答申したというものです。さらに、銚子市においては、27年度を目指し2小学校を統合する方針とのことで、児童数舟木小35人、椎柴小52人の統合について、市長が総合教育会議で教育委員会に方向性を確認したとの報道がなされております。酒々井町の児童推計は、先ほど申し上げましたが下記のとおりでございます。

次に、町の総合計画と学校再編・整備等教育関連施策との関係について申し上げます。下線部分を中心に読み上げます。総合計画策定にあたっては、『「酒々井学」をまちづくりの中心と捉え、“ふるさと酒々井“に対する郷土愛の醸成を図り、町の未来を担うひとづくりに重点を置いた施策の展開が重要』とあります。次に、基本構想の将来都市像では、『10年間で転入増加のための取組を強力に推進し、10年後の令和13年度に現状程度の人口を維持することを目標とする』とあります。さらに、前期基本計画の中では、『「学校施設長寿命化計画」に基づき、各小中学校の計画的な整備・改修と事前の予防修繕を行う』とあります。これらの記述から学校の統廃合をただちに進めることは、当町の総合計画と乖離があると考えております。なお、御宿町においては、総合計画に学校統合が明記されていたにも関わらず、統合に係る議案が議会で否決されており、学校統廃合に関する住民理解を得ることの難しさは相当なものと考えております。

そこで学校の統廃合に関する方針を決定する権限等について触れさせていただきます。教育基本法第6条において、学校は『国、地方公共団体、法律に定める法人が学校を設置できる』と規定されております。つまり、町立小中学校の基本的な制度設計としましては、「小中学校の設置者は町＝長であり、教育委員会は設置者の教育行政を具体的に執行する機関」というのが基本的な制度設計であります。こうした立場を踏まえつつ、検討会議の報告をもとに教育委員会の意見としてまとめたものが次のページ以降となります。

まとめといたしまして、近隣の状況といたしまして、酒々井町学校施設のあり方検討会議で問題視された大室台小学校の単学級化については、近隣等の状況からこれをもって早急に学校の統廃合を進める状況にないということ。

町総合計画の関係におきましては、町総合計画において、人口は緩やかに減少するという推計をしつつ、現状維持を目標に現計画は各校の改修を計画しているということ。

財政と効率性につきましては、財政負担と効率性を理由として統合を推し進めても、地域住民や議会の理解は得られないことが予想されること。

町のブランドイメージとしましては、学校の統廃合は地方自治体の衰退をイメージさせ、特に市街地における学校の廃校は、町のブランドイメージにとって大きなマイナス要因となり得ること。

以上のことから、教育委員会の意見としましては、現状においては町立小中学校の統廃合に向けた取り組みを行う段階がなく、3校を維持することが適当と考えます。

その上で、老朽化する各小中学校の改修等について早急に取り組みを開始し、安全・安心な教育環境整備に努められるよう町長をはじめ財政・人事等町関係課へ協力をお願いするものです。

なお、学校の統廃合の問題は、住民や町全体の施策等に大きな影響を及ぼすことから、今後、更に将来の児童・生徒数の推計（特に学区ごとの推計）を注視しつつ検討の上、町の最上位計画である総合計画においてその方向性を示しつつ、住民の合意形成へ向けた取り組みが必要と考えられます。

以上、学校施設の今後のあり方について、教育委員会としての意見についてのご説明は以上でございます。

越川教育次長

以上、教育委員会としてご意見を述べさせていただきましたが、それでは、金塚町長よりお考えをお示しいただきたいと思います。

金塚町長

ありがとうございました。まさに、最初のご挨拶で、この総合教育会議が首長と教育委員の皆さんが円滑に意思疎通を図り、地域の実情に応じた教育行政を一体的に進めていくというお話をさせていただきましたけれども、ちょうど今の発表を聞きますと、私の考えと教育委員会の皆さんがお示ししていただいたご意見が一致したと認識をしています。

ただ言えることは最後のところにもありましたけれども、安心安全な教育環境づくりを進めていくためには、教育委員会さんだけではなくて、地域の方も含めしっかりと進めていかななくてはいけない部分がありますので、人口統計等、推移を注視しながら、進めていきたいと思っておりますので、引き続きご支援をよろしく願います。

越川教育次長

ありがとうございました。それでは、ご質問やご意見等ございましたらお願いいたします。

河端委員

先ほどのまちづくりや教育施策の中の体育館のエアコン設置についてですが、我々の認識だとあまりにも膨大な費用となり現実的ではないので、スポットクーラーを導入したということなのですが、現段階の見込み等を教えていただきたいと思います。

金塚町長

財政的な問題も絡み、私の考えだけが通る訳ではないので、非常に難しい問題だと思います。スポットクーラーを導入することで、今の状態を凌いでいく意味合いがあり、つけるかつかないかという判断だけではなくて、今通っている子ども達が授業をするにしても、暑い中で授業ができないわけですから、表現は難しいですが、苦肉の策であったと思います。

ただ、文科省の制度だと断熱材を設置するような形であれば、補助金を出しますよとか逆に、先ほど避難所になっているからという話をしましたけれども、例えば防災、減災の面で避難所に指定をしているところだったら3分の1にしますよとか、縦割り行政の中で様々な部門が様々な投資の仕方をしている部分があります。それを住民の皆さんと交付金とか補助金をいただけるとはいえ、町民の皆さんからの一般財源から充てなければいけないという部分があるので、全額出ますよと言われれば、「はいわかりました」とすぐに出しますけれども、そういう部分のバランスを考えながら進めていきたいと思っております。ただ私は、エアコンは必要だと思っているので、何らかの手立てを引っ張り出しながら早めに設置をする方向で考えていきたいと思っております。またそれが教育という部分の補助金を使うのか、災害という部分の補助金を使うのか、もしくは使えるかはわかりませんが、体育館の住民の皆さんへの開放という意味で生涯学習として、スポーツくじみたいなものを当てることのできるのであれば、そういうものを引っ張って少しでも準備していきたいと思っております。

住民へのサービスや子ども達の環境づくりに努めていきたいと思っております。

大塚委員

町長がいろいろと施策を進めようと考えてくださって、すごくありがたいと思います。

実は私の住宅は大室台小学区にあるのですが、娘が通っている頃、大室台小学校の屋上のプールがとても綺麗で、お水も汚れないですし、快適なプールであることを聞いていましたが、この前学校訪問をした際、プールがボロボロで危険だなど思う部分がありました。酒々井小学校については、プールを外部委託しているということで、私自身教師時代に

外部委託の経験がありまして、監視員がついて下さるので、教員としてはすごく楽です。連れて行けば良いので、自分たちの準備の時間も削減できますが、酒々井町から行くにはバスを使わなければならないとかいろいろありますけれども、大室台小学校のプールの外部委託はどのようにお考えかお聞かせください。

金塚町長

3月3日（火）から酒々井町3月定例議会で上程される項目なので、ここで発言をして良いかどうかは微妙なのですが、一応議員の皆さんには19日（木）に全員協議会で、議案説明をさせていただいておりますので、発表してもよろしいのかなと思いますけれども、大室台小学校も令和8年度からスイミングスクールに外部委託する方向で進めています。

議会の承認事項になりますので、可決されないと実現しないわけですが、一応提案としては3月3日の議会に予算計上をさせていただいて進めていきたいと思っています。また施設も、先日こども課長と見学をさせていただきましたけれども、塗装面が剥離していて、お子さんがケガをしてしまったりするなど、毎回ペンキを塗って維持することも多額な費用がかかるということもあります。議員には丁寧に説明させていただいて、承認いただけるような方向で進めていければと思っていますので、よろしくお願ひします。

村重教育長職務代理者

酒々井中学校のグラウンド拡張について、前町長が大規模な拡張計画を考え、まず、テニスコートを先行して整備してきましたが、その後事業が進んでいないようです。金塚町長はどのような考えをお持ちか伺いたいと思います。

金塚町長

私にも責任があるのかもしれませんが、酒々井中学校の用地拡張については、10年間議員をさせていただいて、その間に上程された案件であり、議会としても承認をしたという経緯があります。

ただ、少しずつ広げていってしばらくの間お休みがあつて今も新たな購入というのは控えている状況であるというふうに認識しておりますけれども、テニスコートが、校門外へ新たに整備されたので、今はグラウンドの中のテニスコートは使っていない状況です。

その間に木が大きくて埋まっておりまして、木は切ったのですが、その根っこの部分は残った状態になっており、また、テニスコートのネットを張る杭なども、そのまま残った状態です。野球とサッカー部が交錯するので危険ではないかというお話もありましたし、中学生からも直接こども議会でもそういうご意見もありましたので、これも3月の町議会に上程させていただいておりますけれども、今木があった場所の抜根とテニスコートだった部分の整備を予算計上させていただいております。

サッカーをしている子ども達にとっては、テニスコートの部分の方まで使えるようになりますので少し広く使える状況になると認識しています。野球場の方が広げられるかどうかは微妙ですが、ただ、12月の就任直後の議会の一般質問の中で、ある議員さんから拡張しないのかという話がありましたけれども、今の財政状況の中で、新たな土地の購入を町の財政状況で進めていくことは少し困難な状況であるということはお答えさせていただきました。

ただ、今あるグラウンドの中が未整備の状態が続いていますが、職員の皆さんのご協力もあつて、令和8年度予算になってしまいますけれども、以前あったテニスコートは潰して整地して、その木の根っこが残った部分を外して、テニスコートの杭も外す状況になるので、広い一面ができると思います。

議案の上程ですので、承認をいただかないといけませんけれども、議会の皆さんに丁寧に説明して協力していただけるように進めていきたいと考えております。

越川教育次長

他にございませんか。

(質疑、意見等なし)

日程第4 その他

越川教育次長

他にないようですので、「その他」でございますが、せっかくの機会でございますので、この際、金塚町長に聞いてみたいことなどございましたらお願いします。

(その他なし)

越川教育次長

ないようでございますので、会議は閉会となりますが、閉会にあたりまして、ここで林教育長からご挨拶を頂戴したいと思います。

林教育長

本日は、「酒々井町のまちづくりと教育施策について」、そして「町立小中学校施設の今後のあり方について」の2点について、お話をさせていただきました。

町長からはまちづくりと教育を関連させながら具体的なお話をいただきました。

また、こども模擬議会の内容を取り上げていただいたり、子ども達の安心安全な通学路についても取り上げていただいたりして、感謝しております。

教育委員の方からは、日頃感じていることについて、忌憚のないご意見を頂戴し、話し合いが深まりました。

今日は貴重な意見交換ができて、極めて有意義な時間であったことを嬉しく思っております。

本日はありがとうございました。

日程第5 閉会の宣告

越川教育次長

それでは、以上を持ちまして総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

(15:05)